

第1回三重県人口減少対策推進本部会議 概要

1 開催日時：令和4年5月30日（月）16時30分～16時50分

2 議事概要：以下のとおり

（安井戦略企画部長）

- ・ それでは第1回三重県人口減少対策推進本部会議を開催する。本日は1回目ということで検討のスケジュールや方向性について審議いただく。
- ・ 議題1から議題4についてまとめて事務局から説明をさせていただく。

※資料1～4について、事務局（坂本人口減少対策課長）から説明

（田中最高デジタル責任者）

- ・ 社会減対策について、デジタルをフル活用した行政サービスやDXを通じたデジタル社会形成のトップランナーであるということは若い世代にも選ばれるポイントになるので、デジタル技術を活用した地域課題の解決という記載からもう少し踏み込んで、デジタル社会の実現というような記載もあってもよいのではないか。

（事務局）

- ・ 人口減少対策は若い世代がポイント。デジタルネイティブ世代である若い世代に対して利便性の高い行政サービスなどを構築していくのは、大事なことであり、ご指摘の内容について打ち出していけるように検討したい。

（後田地域連携部長）

- ・ 今後実施する自然減社会減の原因分析や調査の結果は7月に予定する第2回会議に出てるのか。

（事務局）

- ・ 人口減少対策課でさまざまな詳細な調査に入っていくが、7月の会議には現状のデータを整理したものを提供し、9月の会議にはもう少し踏み込んだ要因分析のデータを提供したいと考えている。

（安井戦略企画部長）

- ・ できるだけ前倒しで行い、節目節目で幹事会等を通じて調査の情報提供もさせていただく。

（木平教育長）

- ・ 人口減少対策方針は内容的にどんなものを想定しているのか。

（事務局）

- ・ 人口減少対策に係る考え方や方向性に加え、具体的な事業取り組みについても記載をしていきたい。「みえ元気プラン」でも一定記述をするが、詳細な分析結果がまだ反映できていないので、より踏み込んだ対策を記載していきたい。

（安井戦略企画部長）

- ・ 「みえ元気プラン」では人口減少対策を7つの挑戦の1つに掲げている。本日の内容はおおむね記載されていくと考えているが、これから調査・分析を行い、取組を肉付けした上で方針をつくっていくので、さらに深掘り、補完していくものになると考えている。
- ・ プランの策定後もしっかりと検討し、具体的な取り組みに進めたい。

(中尾医療保健部長)

- ・ 幹事会は今後どのようなスケジュールで行うのか。

(事務局)

- ・ 幹事会で意見交換した上で本部会議に上げるので、頻度としてはこの本部会議と同じ4回か、あるいは必要に応じて議論が必要な場合に追加で意見交換する場を設けていきたい。

(野呂雇用経済部長)

- ・ 個別の取り組みについて雇用経済部で担っている部分が多くあるので、当然ながら我々が持っているデータや分析など、情報共有をさせていただきながら進めさせていただきたい。

(安井戦略企画部長)

- ・ 先日の県議会の常任委員会でも各部局としっかりと連携してほしいというご意見をいただいたので、幹事会だけではなく、各部局と皆さんとの連携をさらに強化し、我々も色々な情報を提供しながらやっていきたいと思っている。

(佐竹県土整備部理事)

- ・ コンパクトシティの考え方は、開発で企業を誘致するという社会減対策の考え方と相反する部分もあるのでどこにどう記載するか、実務者の会議で詰めさせていただきたい。

(安井戦略企画部長)

- ・ 承知した。
- ・ それでは、今日いただいたご意見も踏まえながら、本日の資料に基づいて、これから検討を深めさせていただくということによろしいか。(発言なし)
- ・ この方向に沿って進めさせていただく。

(一見知事)

- ・ 人口減少対策は待ったなしの課題。
- ・ 県政の最大の使命は、県民の安全安心と県の安定的な成長、この2点は非常に大きい。人口が減少するといずれも達成できないので、まず人口の減少を食い止めていくということが一番大事なことと思っている。
- ・ 全国では人口減少の専門の課を設けているところはないと聞いている。来年度にはこども家庭庁が国に設置され、恐らく各県で専門の課を設けて対応していくということになるのではないか。
- ・ 三重県では人口減少対策課、推進本部を設けて議論をし始めており、自然減対策、社会減対策についてしっかりと議論をしていきたい。特に自然減の対策は県だけでできるものではなく、国への提言も重要である。社会減対策は、移住の関係で言うと三重県は現時点では選ばれていると言えるが、これからもそうであり続けるということはないので、継続的に対応していかなければいけない。
- ・ 三重県庁の全部局で人口減少対策問題は自分の部の仕事だという意識を持っていただきながら、議論をこれからも進め、追加の施策も入れていただきたい。